

講義科目名称： 教育実習Ⅱ（小免）

授業コード：

英文科目名称： Practice in Teaching II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	3	選択
担当教員			
梅林 厚子			
添付ファイル			

科目の概要	教育実習は、「教育職員免許法」に定められている小学校教諭の資格を取得するための必修科目です。教師は、教師となったその日から、専門職としての責務を果たす能力や態度が求められます。そのため、教育実習では、大学での学修をもとに、小学校における「教育実践」の実際を学びます。教師（実習生）として職務に携わることによって、教師になるために必要な知識、技能、態度や心構え等について、体験的に理解を深め、教育者としての確かな実践力を修得します。
授業の内容	<p>小学校現場（実習校）において、4週間の実習期間中、管理職および実習指導担当者の指導を受け、以下のような教育活動、ほぼすべてを体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎学級指導（学級会、朝の会、終わりの会、給食、清掃等の指導） ◎児童観察（学習時間中、休み時間、放課後など、あらゆる時間を通して、児童の様子を観察し、記録に残す） ◎授業参観（配当学級、その他の学級の授業を参観する） ◎教材研究（担当する授業の指導案作成、それに伴う教材の分析・研究、準備物の作成） ◎授業実習（指導案に基づき、授業を実践する）（複数教科5時間程度が望ましい） ◎教科指導（実際の授業や宿題・提出物等の点検、添削） ◎研究授業（実習の総まとめとして、他の教員、実習生に授業を公開する。実施後、総括、反省を行い、授業を振り返る） ◎校務等（学校運営、学級経営に必要な事務や作業等） ◎生活指導（校内での基本的なルール、マナー、友人関係などの指導）
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学校とは何か、教師の職務とは何かについて理解する。 (2) 観察・体験を通して児童理解の方法や着眼点を理解する。 (3) 教師としての専門知識を深め、基本的な指導技術を身に付ける。 (4) 教師を目差す者として、自己の課題や目標を明らかにする。 (5) 教師としての自覚や使命感を養う。
授業の方法	実習校において4週間の実習を行う。
成績評価の方法	実習校による評価、および、実習ノートの内容、面談内容などを総合的に評価する。
教科書・テキスト	◎大阪青山大学 子ども教育学科 教育実習ハンドブックおよび実習ノート ◎教育実習事前指導の講義資料
参考書	教育実習事前指導の講義で紹介
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	◎教育実習事前・事後指導（小）の講義に参加すること ◎訪問担当教員と「顔合わせ」、「振り返り」をして、指導、助言を受けること ◎実習ノートは、丁寧に、詳細に記入し、実習校の担当者の指導を受けること
履修上の留意事項	◎教育実習の意義と目的を理解し、積極的に参加すること ◎実習先の教育方針、地域の様子などを事前に学び、実習に生かすこと ◎参加条件を満たさない場合は、参加できない。
オフィスアワー	昼休みなど 保育教職支援室 にて
担当教員への連絡方法	保育教職支援室 および 訪問担当教員研究室（後日通知）
その他	特になし